

## 総合的な学習の時間等を充実させるための体制づくりについての一考察

－ 地域は大きな教室・地域はパートナー －

釋迦堂 幾則

### 要約

「総合的な学習の時間」の特徴は、体験活動を行うことであり、連携体制の充実に基づく教育活動が大きな意義がある。職員等の異動があっても組織として継続的に連携・協働できる体制づくりに向けてのマネジメントが肝要であり、中でも、校長のリーダーシップに基づく連携体制づくりが重要である。小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編(平成29年7月)の「第9章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり」の「第1節 体制整備の基本的な考え方」において、校内の体制づくりについて4つの視点が示されている。その内の2つの視点(「校内の教職員が一体となり協力できる体制をつくるなど校内組織の整備」、「学校が家庭や地域と連携・協働しながら取り組む外部連携の構築」)について、実践例を基に考察を加えた。

具体的には、「校長のリーダーシップ」の下、いかにして「校内組織の整備」や「外部連携の構築」に取り組んでいるのかについて、宮崎市内の公立小学校における取組を紹介した。(「地域連携・生涯学習全体計画」への位置付けによる体制づくり、「学校運営体制・校務分掌への位置付けによる校内体制づくり」、「PTA専門部と校務分掌組織との対応による体制づくり」、「地域連携研修による校内体制づくり・外部連携の構築」、「保護者や地域への発表・発信による外部連携の構築」、「学校関係者評価による校内体制づくり・外部連携の構築」等)特に、新年度最初に実施した地域連携研修は、校内体制づくりとともに学校と地域が目的や目標、目指す姿を共有し、組織的かつ継続的に取り組んでいける関係づくりや体制づくりの推進に繋がった。また、保護者や地域への学習成果の発表・発信による外部連携の構築の重要性が明らかになった。

**キーワード**：社会に開かれた教育課程、総合的な学習の時間、校長のリーダーシップ、校内組織の整備、外部連携の構築

### 1 はじめに

新しい学習指導要領においては、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現」が求められている。

総合的な学習の時間については、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編(平成29年7月)の「第9章総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり」の「第1節 体制整備の基本的な考え方」において、校内の体制づくりについて以下のことが示されている。(前略)「質の高い豊かな学習活動を実施するためにも、校長は、以下に記した四つを視野に入れた校内の体制づくりに十分配慮しなければならない。(筆者が番号及びアンダーラインを付して項目のみ四つ抜粋して記述)

①「校内の教職員が一体となり協力できる体制をつくるなど校内組織の整備」

- ② 「確実かつ柔軟な実施のための授業時数の確保と弾力的な運営」
- ③ 「多様な学習活動に対応するための空間、時間、人などの学習環境の整備」
- ④ 「学校が家庭や地域と連携・協働しながら取り組む外部連携の構築」

また、「第2節 校内組織の整備 1 校長のリーダーシップ」には次のように記されている。

校長は、各学校において総合的な学習の時間の目標及び内容、学習活動等について決定していかねばならないことから、その教育的意義や教育課程における位置付けなどを踏まえながら、自分の学校のビジョンを全教職員に説明するとともに、その実践意欲を高め、実施に向けて校内組織を整えていかねばならない。」(中略)「社会に開かれた教育課程」の理念の下、校長はリーダーシップを発揮し、自分の学校の総合的な学習の時間の目標や内容、実施状況について発表する場と機会を定期的に設けたり、学校だよりやホームページ等により積極的に外部に発信したりするなどして、広く理解と協力を求めることが大切である。

このように学校においては、子どもにとって充実した教育活動につながる体制づくりが重要となる。特に、「総合的な学習の時間」の特徴は、体験活動を行うことであり、連携体制の充実に基づく教育活動が大きな意義がある。「チームとしての学校」の取組や実現も期待されるなか、職員等の異動があっても組織として継続的に連携・協働できる体制づくりに向けてのマネジメントが肝要である。中でも、校長のリーダーシップに基づく連携体制づくりが重要であり、各自治体や学校においては、独自の体制づくりが展開されている。

そこで本稿では、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編(平成29年7月)の「第9章総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり」(「第1節 体制整備の基本的な考え方」「第2節 校内組織の整備 1 校長のリーダーシップ」「第5節 外部との連携の構築」)に焦点を当てた実践を紹介する。具体的には、「校長のリーダーシップ」の下、いかにして「校内組織の整備」や「外部連携の構築」に取り組んでいるかについて詳述する。

## 2 宮崎市立本郷小学校における体制づくりの取組例

宮崎市立本郷小学校は昭和54年創立、筆者が赴任した平成27年度は、児童数763名、職員数49名で、平成29年度まで在職した。

### (1) 宮崎市教育委員会の教育施策を踏まえた体制づくり(視点1)

各学校では、県及び宮崎市の教育施策等を踏まえた学校独自の体制づくりに取り組む必要がある。宮崎市の学校においては、下記のような宮崎市教育ビジョン(改訂版平成26年度～29年度)に基づき、「地域と学校の連携活動」が展開されてきた(宮崎市教育委員会、(2019))。

宮崎市教育ビジョン「基本目標3 社会教育・家庭教育の充実」より一部抜粋)

#### ○ 主な施策1 開かれた学校づくりの推進

「学校に関する情報を積極的に家庭・地域へ情報発信」

「学校関係者評価委員による評価結果を学校ホームページなどで公表」

○ 主な施策2 地域と学校の連携

「学校支援ボランティアが教育活動に参加しやすい体制づくり」

その後、平成30年度からは、第二次宮崎市教育振興基本計画に「地域・家庭・学校が連携した教育の充実」など三つを基本目標に掲げ、「地域・家庭・学校が連携した教育の充実」の視点から施策を見直した。基本目標は見直されたが、主な施策には29年度までと同様に「開かれた学校づくりの推進」、「地域と学校の連携」などが位置付けられている。

(2) 学校経営計画の作成及び説明による体制づくり(視点1、2)

本郷小学校のある本郷地域自治区は、平成28年度に赤江地域自治区から独立して誕生した地域である。本郷まちづくり推進委員会は、1年早く平成27年度に独立して活動を開始した。筆者が在職した3か年(平成27年度～平成29年度在職)は、地域の魅力をみんなで発掘・認識しながら発信していこう、みんなで地域づくりに取り組もうというまちづくりの機運の強い時期であった。赤江地域自治区及び本郷地域自治区両方の会議や行事等に積極的に参加し、地域の魅力・宝・財産、地域課題、学校教育へのニーズ等を把握し、関係機関との連携を図り、指導の充実に努めた。学校では「チーム本郷」を合言葉にした地域とともにある学校づくりを、地域では「オール本郷」を合言葉にした輝く本郷づくりに取り組んでいた。平成29年3月には、「本郷地域魅力発信プラン」が策定された。そのような中、宮崎県や宮崎市の教育施策等を踏まえ、学校関係者評価書や地域の課題等を反映させて「(資料1)平成29年度本郷小学校の教育(学校経営計画)」を作成した。

作成の際、総合的な学習の時間等を充実させるための体制づくりにつなげるために「学校経営ビジョン3」、「重点目標及び主な実践内容(「地域とともにある開かれた学校づくり」)」、「学校経営ビジョン推進に向けて大切にしたいこと」に保護者や地域住民との連携強化に係る内容を明記した。(太字、アンダーラインが関係箇所)

新年度初日の「校長による学校経営方針説明」において全職員に説明するとともに、保護者に対しては、4月の参観日、PTA総会において説明し、推進に向けての理解と協力を求めた。併せて学校便り「フェニックス」に掲載し、保護者や地域(掲示板)、近隣の小中学校、幼稚園などの関係機関等に直接配付するとともに、学校のホームページ(5月)にも掲載し、現在も掲載中である。

(資料1) 平成29年度本郷小学校の教育

〈教育目標〉

～ 豊かな心とたくましい体を持ち、確かな学力を身に付けて、創造性に富み、郷土愛豊かな児童を育成する ～

めざす児童像	めざす学校像	めざす教師像
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 進んで学ぶ子</li><li>○ 仲良く助け合う子</li><li>○ 明るく元気な子</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 活力と情熱のある学校</li><li>○ 明るく楽しい学校</li><li>○ 美しく整備された学校</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 変容を見届ける教師</li><li>○ 行動を通して導く教師</li><li>○ 信頼に応える教師</li></ul>

〈学校経営ビジョン〉

- 1 学年・学級経営の充実及びOJTの強化を通して、教育目標の具現化に努める。
- 2 教育活動全般を通して、「ありがとう」の声が響く学校づくりに努める。
- 3 情報発信や人材活用等を通して、保護者及び地域住民との連携強化に努める。**

〈重点目標及び主な実践内容〉

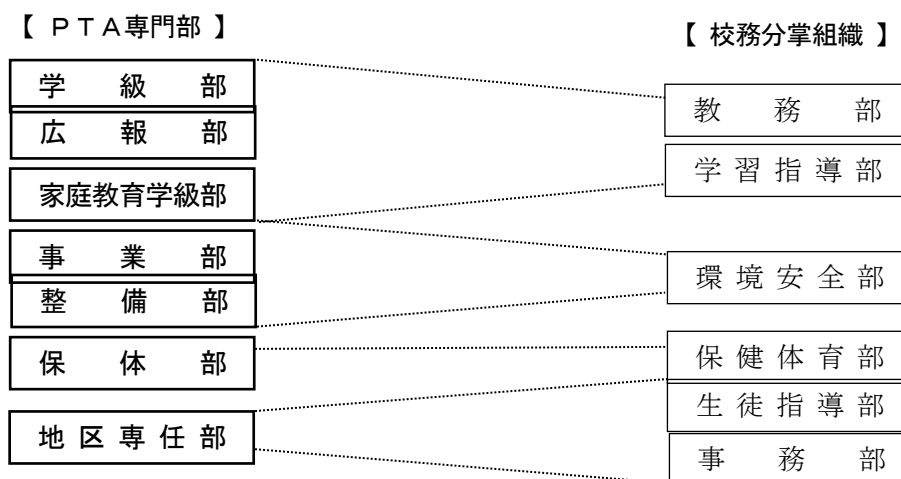
『確かな学力の向上』 進んで学ぶ子【知】	『豊かな心の育成』 仲良く助け合う子【徳】	『健康・安全管理能力の育成』 明るく元気な子【体】
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 授業改善を行い「分かる・できる」まで教える指導で学力向上を目指す。</li> <li>◎ 「家庭学習の手引き」を配付し、自学自習の習慣化を図る。</li> <li>◎ 読書の機会及び多様な図書に触れる機会を拡充し読書の習慣化を図る。 ※ 学習指導部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 家庭や地域社会との連携を深めながら、あいさつをはじめとする基本的な生活習慣の形成を図るとともに児童の規範意識を高める。</li> <li>◎ 道徳教育・人権教育・特別支援教育・特別活動を核として、思いやりの心を醸成する。 ※ 生徒指導部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 健康に関する指導や啓発活動を充実させ、健康・安全、食育に関する意識や態度を育てる。</li> <li>◎ 体力向上プランの計画的・継続的な実践を通して体力向上を図る。 ※ 保健体育部</li> </ul>
<p>『安全・安心で整った環境づくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 無言清掃の徹底を通して、環境美化への意識を高め、心豊かな児童を育成する。【徳】</li> <li>◎ 安全・防災教育を充実させ、危険予知能力や危機回避能力を高める。【体】 ※ 環境安全部</li> </ul>		
<p>『地域とともにある開かれた学校づくり』（知育・徳育・体育のすべてに関わる内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ キャリア教育を通して、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する。（「ありがとう（かんしゃの心）」がいつばいの本郷小、「目的意識・やる気」、「集団の一員としての責任感」）</li> <li>◎ <b>「地域は大きな教室、地域はパートナー」という認識のもと、地域の多様な教育資源や人材などを積極的に活用したふるさと学習や豊かな体験活動を通して地域の理解と人との関わりを深め、ふるさとに学び、誇りや愛着を育む。</b></li> <li>◎ 家庭教育の充実のため、教育活動の情報発信を通して、各家庭の生活習慣や学習習慣の定着を図るとともに、参観日や個人面談を工夫することで、保護者との信頼を深める。</li> <li>◎ 本郷中学校区一貫教育の充実を図る。 ※ 教務部</li> </ul>		
<p>〈学校経営ビジョンの実現に向けて大切にしたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ <b>「実践の基軸は子ども（子どもにとってどうか）」</b>「主体性の重視（目的意識、自主的・実践的な活動の重視）」<b>「地域重視（ふるさとを学び、誇りや愛着を育む教育）」</b>の三つを念頭に置いて教育活動の意義・目的・内容・方法等を見直し、内容を精選しながら徹底した指導と見届けの指導に努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 重点見直し内容「<b>キャリア教育の一層の充実（ふるさと学習の再構築、地域人材のキャリア教育的活用）</b>」</li> <li>⇒ 重点見直し内容「<b>学習指導と生徒指導を車の両輪とした指導の充実</b>」（学校が楽しい・授業がよくわかる等）</li> </ul> </li> <li>◇ <b>教育活動全般にわたって、「横の連携」と「縦の接続」を重視して推進する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ <b>学校・家庭・地域（・内容によって児童）が「目標や課題」を共有し、協力しながら、「地域に開かれた共にはぐくむ教育」を展開する。</b>【横の連携】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>本郷地域自治区地域協議会、学校関係者評価委員会をはじめあらゆる機会に地域の魅力・宝・財産、地域課題、学校教育へのニーズ（『本郷地域魅力発信プラン』等）を把握し、関係機関との連携を図り、指導の充実に努める。</b></li> <li>・ <b>校務分掌組織と組織改編されたPTA組織をリンクさせた一体的な実践に努める。</b></li> </ul> </li> <li>※ 「具体的な成果・変容」につながる本郷中学校区の一貫と連携の指導に取り組む。【縦の接続】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定研究の成果を生かした授業実践と交流、共通実践事項（知徳体）の推進⇒教育課程への位置付け、校務分掌への移行</li> <li>・ 幼、保、小、中との年間を通じた緊密な交流や特別支援教育担当者会の連携の強化・研修の充実に努める。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◇ <b>認識の共有と行動の一元化（「チーム本郷」としての組織的対応）、スクールサポートセンター（事務部）の機能充実、防災態勢の見直しなど危機管理体制の確立、服務規律の遵守、能力を発揮できる環境の整備・充実に努める。</b></li> </ul>		

(3) 保護者との連携体制づくり（視点2）

家庭との連携を図りながら目標と課題を共有し、共に育む教育を展開する必要がある。そのため、積極的な働きかけと家庭の理解や協力を得られるようにした。

保護者との連携体制を構築する上で、学校の校務分掌組織とPTA組織を対応させることが、極めて大きい。そこで、平成27年度10月以降～28年度にかけて、2年がかりでPTAの組織改変(13の専門部を7つの専門部に組織改変)を行い、校務分掌組織との対応を図り、組織運営体制の見直しによる校務のスリム化にも繋がった。(資料1、資料2)このことが、学校と保護者が目標と課題を共有し、交流を重ねながら一緒になって子どもの教育活動に取り組める体制づくりに繋がった。

(資料2) 平成29年度PTA専門部と校務分掌組織との対応



(4) 「地域連携・生涯学習全体計画」への位置付けによる校内体制づくり(視点1)

総合的な学習の時間も含め、地域連携の目標等を整理して「地域連携・生涯学習全体計画」に位置付け、職員間で認識を共有し、内容をしっかり意識して取り組めるようにした(資料3参照)。

(資料3)「地域連携・生涯学習全体計画」(一部抜粋)への位置付け

- ◎ 本校の地域連携の目標
 

ふるさとの文化や自然を愛する心を育成するとともに、児童が地域から生活の知恵や技術を学ぼうとする態度を育てる。
- ◎ 地域連携の重点目標
  - 地域素材(地域素材・人材)を生かした教育活動の推進
  - 本郷まちづくり推進委員会等関係機関との連携
  - 地域への積極的な情報発信
 

「本郷地域魅力発信プラン」「学校便り・フェニックス」「ホームページ」
- ◎ 各教科・領域での指導「総合的な学習の時間」
  - 地域との交流を通じた福祉や奉仕・環境問題・国際理解等に関する課題追究
  - 地域社会に貢献しようとする態度の育成

(5) 学校運営体制・校務分掌への位置付けによる校内体制づくり(視点1)

上記「重点目標及び主な実践内容(「地域とともにある開かれた学校づくり」※推進担当教務部)」の◎

実践内容について「自己評価計画書」に位置付けるとともに、学校運営組織・校務分掌組織に位置付け、役割責任体制を明確にした。地域連携担当については、教務部に2名（1名は教務主任）「地域の連携を生かした教育活動の充実（関係機関との連携・外部講師・校外学習）」を位置付けた。

(6) 学校経営案等への位置付けによる校内体制づくり・外部連携の構築（視点1、視点2）

職員が目標や課題、指導方法、システム等について「認識の共有と行動の一元化」を図り、当事者意識をもって取り組むことが、総合的な学習の時間等等を充実させるための校内体制づくりには欠かせない。そのため、学校経営案等に詳細を明記し、共通理解を図った。

(資料4) 地域とともにある開かれた学校づくりを担当する教務部

◎ 重点目標及び主な実践内容（資料1「本郷小学校の教育」に位置づけた柱の一つに係る箇所を一部抜粋）
「地域は大きな教室、地域はパートナー」という認識のもと、地域の多様な教育資源や人材などを積極的に活用したふるさと学習や豊かな体験活動を通して地域の理解と人との関わりを深め、ふるさとに学び、誇りや愛着を育む。
◎ 具体的な取組（関係箇所を一部抜粋）
《地域との連携による教育活動の充実》
「地域は大きな教室、地域はパートナー」という認識で、「子ども・学校・地域」にとってのボランティア等の活用により期待される効果（子どもにとっては、一人一人の学習、課題への対応、安全・防災支援、ボランティアの専門性、地域や子どもへの愛情・生き方等からの学び等）を吟味し、体験活動を通じた、学習の充実と学校教育の活性化を図る。
平成29・30年度は、学校支援コーディネーター（市教育委員会）を配置していただき、地域の方が教育活動に参画しやすい環境づくりを推進していく。また、その方に学校と地域をつなぐ役割を担っていただく。環境整備支援ボランティアの活用についても積極的に推進していく。

(資料5) 地域素材・人材を生かした各学年の活動計画（5月以降の予定、総合と生活科を中心に抜粋）

月	活動内容	協力者等	予定数	学年	教科等
5	地域めぐり	本郷まちづくり推進委員会	8	3	社会科・総合
	将来の夢に関する話	保護者	8	6	総合
	環境オリエンテーション	本郷まちづくり推進委員会他	15	4	総合
	春を探そう	本郷まちづくり推進委員会	12	2	生活科
6	福祉施設見学	ことぶき苑、ことぶきの杜	10	5	総合
	景観教室	KOALA宮崎	5	4	総合
	山崎川水生生物・水質調査	本郷まちづくり推進委員会他	30	4	総合
	本郷ふしぎ発見(地域の施設見学)	宮崎県立看護大学	5	3	総合
	ホテルについて学ぶ	本郷まちづくり推進委員会他	13	4	総合
	夏を探そう	本郷まちづくり推進委員会	10	2	生活科
	福祉体験	ことぶき苑、ことぶきの杜	10	5	総合
コスモスを植えよう	本郷まちづくり推進委員会	5	4	総合	
10	秋を探そう	本郷まちづくり推進委員会	10	2	生活科
	いじめ予防ワークショップ	人間関係アプローチ宮崎きらきら	1	4	総合

	いのちのたんじょう	か母ちやつ子クラブ	4	2	生活
11	高齢者との交流	ことぶき苑、ことぶきの杜	10	5	総合
	しょうゆ作り出前授業	ヤマエ醤油	3	3	総合
	発見！山崎川の自然環境児童発表	本郷まちづくり推進委員会他	8	4	総合
1	昔からの遊び指導	保護者 本郷まちづくり推進委員会	30	1	生活科

12月の教育課程の評価以降、次年度の教育課程を編成するなかで、想定される「次年度活動計画」（月・活動内容・協力者等・依頼したい協力者数・学年・教科等）を学年ごとに作成し、地域連携担当（教務主任等）が整理して（資料5）「地域素材・人材を生かした各学年の活動計画（5月以降の予定、総合と生活科を中心に抜粋）」を作成した。（総合的な学習の時間は「総合」と表記）

この計画をもとに職員間で共通理解を図るとともに、本郷まちづくり推進委員会等の関係機関に事前に計画を配付し、学校が期待したい教育活動に、どのような人材や施設等が活用できるか相談し、調整を依頼するなど年間の見通しをもって総合的な学習の時間等への協力体制づくりに繋げるようにした。

赴任3年目の平成29年度に向けては、教育課程編成の段階（12月～3月）から、本郷まちづくり推進委員会の方々も一緒に学習支援ボランティアの活用計画も検討した。平成29年度からは、宮崎市から新たに配置された学校支援コーディネーターがまちづくり推進委員会との調整を担う体制を構築した。

#### (7) 職員研修による校内体制づくり・外部連携の構築（視点1、視点2）

##### ① 現職教育としての「地域連携研修」の実施

教職員の資質向上と学び続ける教職員のために、現職教育を積極的に位置付け、研修を深めていく。春季休業中の年度最初の研修として「地域連携研修」を位置付けて実施し、その概要を学校便り「フェニックス」に掲載し、家庭・地域・関係機関に配付するとともに学校のホームページにもアップした。

#### 【現職教育年間研修計画】（平成29年度最初の職員研修一部抜粋）

実施予定日(曜)	名称	研修内容	担当
4月4日(水)	地域連携研修	地域のよさ、連携についての共通理解	地域連携担当

#### (資料6) 小学校便りの発行

「フェニックス」平成29年4月18日 本郷小学校便り第1号 文責：校長 釋迦堂幾則

## 地域連携研修を行いました！

（通信の一部抜粋）

4月4日（火）に、本郷まちづくり推進委員会から会長の甲斐慎二様、事務局の梅崎佳子様、津曲志乃様をお招きして、「地域連携研修」を行いました。

まず、「本郷地域魅力発信プラン」については、「輝く本郷！」をみんなで作るために、次の5つの柱について、様々な取組がなされていることを説明していただきました。

☆ 安心して暮らせる本郷	☆ 災害に強い安心の本郷	☆ 子育てしやすい本郷
☆ 歴史ある本郷・歴史をつくる本郷	☆ 高齢者にやさしい本郷	

次に、各部会における「平成28年度の活動状況」について、ご説明いただきました。

- 安心安全部会…本郷地区青パトロール隊の活動
- 環境部会…山崎川の草刈 ○ 文化部会…本郷まちあるき ○ ふれあい部会…まつり本郷
- 広報部会…子どもかぐら体験事業 ○ 健康福祉部会…子育てサロン 等

甲斐様のお話の中で、「地域づくりは景観づくり」、「いいまちにはいい子が育つ。」というお言葉がありました。学校でも地域の課題や教育的ニーズを把握し、学校・家庭・地域が「目的や目標」を共有し、ともに育む教育を展開して参りたいと思います。また、今年度も本郷まちづくり推進委員会をはじめ、地域や保護者の皆様のご協力をいただきながら、学習支援・環境支援ボランティアを活用した教育活動の充実に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## ② 地域の魅力や課題・取組・地域の方々の思いの理解

この研修では、本郷地域自治区が平成 28 年度に赤江地域自治区から独立して誕生した地域であることや「本郷地域魅力発信プラン」（平成 29 年 3 月作成）の内容についてしっかり理解し、教育内容・方法の見直しなど地域課題の解決に向けて一緒に取り組むことについても共通理解した。

職員が地域の魅力・課題を知る機会、転入職員が地域や学校へのニーズを知る機会となった。

前年度の実績を基に、平成 29 年度本郷まちづくり推進委員会事業として、本郷小学校との連携・協働により実施する計画があることなど、まちづくり推進の一環として地域全体で学校の教育活動を一緒に支援していこうという位置付けがあることも認識する機会となった。

「環境部会」の事業には、「自然体験学習事業(対象：本郷小学校 4 年生、内容：山崎川等の美化活動及び自然観察・調査等の指導、景観教室合同事業)」があげられる。事業目的（本郷まちづくり推進委員会）は以下の通りである。

「次世代の子どもたちに、身近な河川の大切さを知るとともにホタル等の生態系観察を通じて命の尊さを学習してもらう。さらに、小学校等の総合的な学習（自然体験学習）を支援し、地域住民も一体となって自然環境を保全する「魅力ある本郷地区ふる里づくり」を目指す。廃油を利用したリサイクル商品作りを行う。」

「ふれあい部会」の事業には「地域と学校の連携事業(対象：本郷小学校、内容：町たんけん、昔あそび、避難訓練など)」があげられる。事業目的（本郷まちづくり推進委員会）は以下の通りである。

「“地域”では地域教材や人材を授業に活用してもらい、“学校”は学校施設の開放や地域行事へ参加することで、将来「まちづくり」を担っていく児童生徒を育成することで、地域の中の学校を目指す。」

## ③ まちづくり推進委員会・学校支援コーディネーターの役割や活用方法の理解

また、本郷まちづくり推進委員会の担当者や具体的な連携のシステムの説明の機会となった。平成 29 年度「地域と学校の連携による教育活動支援事業」の指定（市内の 6 小・中学校）に伴い配置された「学校支援コーディネーター」（宮崎市教育委員会）の紹介、業務内容、位置付け、活用方法の確認の場にもなった。学習・環境支援ボランティア活用の具体的な流れ（依頼方法システム）の具体的な学習の機会となった。

### 事業の目的

地域住民が教育活動に関わりやすい環境づくりを推進するために、豊富な社会経験を持つ人材等



を活用し、地域と学校の連携による様々な教育支援活動を支援する体制構築を図る。

**学校支援コーディネーターとは**

教育支援のニーズを持つ学校と学校支援ボランティアをしたいと考えている人の間に立ち、「学校支援ボランティア活動」が円滑に実施できるよう調整する役割を担う人のこと。

**学校支援後ディネーターの業務内容**

「学校と地域との連携や地域協議会（まちづくり推進委員会）、PTA等各種団体との連携体制の構築」、  
 「学校支援ボランティアの確保」、「学校と学校支援ボランティアとの連絡調整」、「地域への広報」  
 等

④ 職員研修後の実践

この例としては、以下の3つがあげられる。

- 1) 上記「本郷地域魅力発信プラン」の目的や内容（事業目的）と総合的な学習の時間をはじめとした学校の教育課程と対応させながらの環境教育の見直し（総合）、福祉教育の見直し（総合）、防災教育の見直し（研修・行事等）に繋がった。例えば、「景観をよくしましょう」という発信プランの内容と地域のニーズを踏まえて、4年生の環境教育（総合）に「景観教室」の内容を加えて計画・実施した。
- 2) 地域支援コーディネーターが配置され、学年会の時間帯などに連携推進担当の教務主任や関係学年の職員（必用に応じて総合的な学習の時間主任）と打合せ、その内容・意向を踏まえた「まちづくり推進委員会等との打合せ等」を行ってもらった。そのことが、学校支援ボランティア数の増加などの「地域の方々」が学校活動に参加しやすい体制づくりや教員の働き方改革にも繋がった。  
 （学校支援ボランティア数「H27 247名」⇒「H28 348名」⇒「H29 612名」）
- 3) 校長・PTA会長・地域支援コーディネーターの「連名による依頼文書・お礼文書」を地域支援コーディネーターが作成し、学校と保護者が共通認識の下、子どもに必要な資質・能力を身につけさせるために連携活動による教育活動を推進していることが保護者や地域の方々にはしっかり理解してもらえるようにした。そのことにより、より多くの保護者や地域の方々に教育活動への支援に参加していただくことに繋がった。

(8) 「総合的な学習の時間」の実践例（平成29年度）（視点2）

以下のような実践を行なった。

- ① 指導者
  - 学校関係者 4年生学級担任、学校支援コーディネーター
  - 地域等関係者 本郷まちづくり推進委員会、山崎川を清流にもどす有志の会  
 宮崎建築士会、赤江未来の会、国土交通省宮崎河川国道事務所  
 宮崎土木事務所
- ② 教科領域名・単元名 総合的な学習の時間(発見！山崎川のかんきょう)
- ③ 対象学年 第4学年
- ④ 目標
  - 山崎川の環境について調べ、ホテルをはじめとする生きる生物や水質について興味・関心を持ち、地域の環境を守ろうとする態度を育てる。
  - 山崎川の清流を守る方たちと交流することで、地域を大切にする態度を学び、自分

たちにも地域のために役に立とうという気持ちを育てる。

⑤ 指導計画

「4年生の総合的な学習の時間 年間指導計画（全70時間）」

テーマ「未来について考えよう」（環境について考えよう「発見！山崎川のかんきょう」、二分の一成人式を成功させよう）

年間指導計画では、29時間計画（課題設定⑦・調べ活動⑮・情報の分析⑤・表現②）情報活用⑥（調べ学習「山崎川、水質調査」）

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| ○「わたしたちの山崎川に関するお話」      | ○「景観教室」          |
| ○「自然体験学習（植物・水生生物・水質調査）」 | ○「コスモスの種まき」      |
| ○「灯籠作り」                 | ○「オープンスクールでの発表会」 |

年度ごとに、学年を中心に校内関係者で話し合い、地域等関係者と一緒に計画を見直している。単元の一部だけの協力要請では、子どもにどのような体験・学びをさせたいのかが理解してもらえずに、学校職員と協力者の思いが噛み合わず、結果的に子どもの学習活動の充実につながらない場合もある。それだけに、学年でしっかり話し合い、「連携・協働が想定される地域関係者」との打合せを行い、具体的な指導計画を一緒に作成した。その際、どの学習活動にどのような支援が必要なのかといった地域等関係者の関わりについても時間をかけて話し合うようにした。

⑥ 成果

児童にとっては、体験活動を通して地域の魅力と自然の大切さを肌で感じる学習になった。そこで得た気づきや学びが環境保全を担う次世代の育成に繋がるものと思われる。一人一人の学習課題への対応、安全面の確保、学校支援ボランティアの専門性からの学び、学習支援ボランティアの方々の生き方や子どもたちへの愛情、地域への思いからの学びを通して、環境学習のねらいの達成や地域への誇りや愛着、「ありがとう（感謝）」の醸成に繋がったようである。

学校指導者にとっては、地域の関係者や保護者などの協力者によるボランティア活用計画を入念に検討し、緊密な連携を図りながら年間の見通しをもった教育を展開する中で、児童の成長と学習の成果を実感したようである。

地域等指導者（学校支援ボランティア）にとっては、地域や環境への思いが体験活動を通して子どもにしっかりと伝わったといった達成感や充実感、本郷まちづくり（事業目的の達成）にも繋がったようである。学校の教育活動に協力しながら「子どもたちから元気や生きがいをもたらした。」「これからも学校支援ボランティアに参加したい。」といった声がたくさん聞かれた。

（資料7）小学校便りの発行

「フェニックス」平成29年5月26日 本郷小学校便り第3号 文責：校長 釋迦堂幾則

## 地域は大きな教室 (通信の一部抜粋)

5月17日に4年生が「総合的な学習の時間」において、「自然体験学習」を行いました。この授業は、本郷まちづくり推進委員会、山崎川を清流にもどす有志の会の皆様を中心に、宮崎建築士会、赤江未来の会、宮崎土木事務所、国土交通省宮崎河川国道事務所の皆様のご協力をいただいて実施しているもので、次の2つのことを主なねらいとしています。



- 次世代を担う子どもたちに、身近な川の大切を知るとともに、川の様子や水質を学び、人々の生活にどのように関わっているかを調べ、川に棲む魚や水生生物などの生き物たちを観察し、命の尊さを学ぶ。
- 自分たちの住むまちの歴史、文化、風土、景観など、地域の宝物について調べ、考え、興味をもつことにより、ふる里の自然を大切にすることを育てる。

第1回の学習内容は、「わたしたちの山崎川に関するお話」で、山崎川の今と昔やきれいな川作りを始めた理由、学校や川から見える風景等に関してお話をしていただき、子どもたちも目を輝かせていました。

今後は、第2回目は「景観教室」、第3回目は「自然体験学習（植物・水生生物・水質調査）」、第4回目は「コスモスの種まき」、第5回目は「灯籠作り」、第6回目は「オープンスクールでの発表会」について学習する予定です。

なお、子どもたちが作った灯籠は、11月11日の「芋煮会」の際に、ろうそくを中に入れて川の近くに並べる予定です。どんな美しい景色が見られるか楽しみです。

### (9) 保護者や地域への発表・発信による外部連携の構築（視点2）

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）の「第9章総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり」の「2 外部連携のための留意点」には、外部連携のためのシステムや外部連携を適切に行うための配慮事項が5点記されている。

「(5) 学習成果の発信」として次のように記されている。「外部との連携を一層円滑にするために、学習成果の発信が必要である。学校公開日や学習発表会などの開催を通知したり、学校だよりの配布などをしたりして、保護者や地域の人々に総合的な学習の時間の成果を発表する場と機会を設けることが必用である。そのことにより、保護者や地域の人々は、総合的な学習の時間に関心を示すとともに、連携や成果を実感し、満足感をもつことにもなる。こうした取組は、総合的な学習の時間が児童の成長につながるだけでなく、相手にとっても大きな成果を生む場合がある。」

平成29年度の「総合的な学習の時間」の連携活動による取組の外部への発信については、月2回の学校便りや学校ホームページ（学校便り及びブログ）での発信、オープンスクールにおける学習発表に加え、資料8のとおり、関係機関等からも取組が紹介された。特に、『地域と学校の連携による教育活動支援事業』通信第3号（宮崎市教育委員会）及び『景観教室レポート』（宮崎市都市整備部景観課制作・発行）では全紙面を使って、本郷小学校4年生の環境学習の成果が紹介された。印刷して保護者や関係者にも配付した。児童・保護者・地域の方々・学校職員にとって大きな喜びにつながった。

（資料8）平成29年度の取組についての関係機関・行政機関による活動紹介等

◎ 地域と学校の連携実践紹介「本郷小学校4年生 景観学習を終えて」 平成29年12月2日

『地域と学校の連携による教育活動支援事業』通信 第3号 宮崎市教育委員会 生涯学習課

【地域の未来を繋ぐ】実践例として紹介

「本郷小学校では、まちづくり推進委員会、県建築士会、土木事務所、市景観課の方々が加わり、地域と学校の協働活動を通じて地域創りが行われていました。景観学習の全時間を通して、子どもたちに何を学ばせ、どのような方法で学び続けさせるか工夫し、地域を誇りに思わせようという支援者の一人一人の願いが伝わってきました。企画の最終章では子どもたちの心ふるさとを深く刻ませようと灯籠祭りを計画し、子どもたちと喜びを共有していました。手づくり灯籠の思い出が子どもたちの心に生涯残る総合的な学習の時間のテーマ学習でした。」(生涯学習課)

・ 学校指導者(4年生学級担任)、4年生児童の学び・感想・感謝、ボランティア代表の声(景観教室の目的である知識の習得につながったこと、郷土愛の醸成への貢献、魅力あるふるさとづくりに子どもたちが参加してくれたことの喜び)・コーディネーターの紹介

◎ 学校紹介「地域とともにある開かれた学校づくり～地域は大きな教室・地域はパートナー～」

『教育宮崎市』宮崎市教育委員会広報 平成30年1月 宮崎市教育委員会発行

◎ 宮崎市立本郷小学校4年 景観教室レポート

第1回「景観」を知る・第2回「景観を考える」・第3回「景観を表現する」

・児童の感想及び宮崎市建築士会の児童に向けてのメッセージ

『景観教室レポート』平成30年1月 宮崎市都市整備部景観課制作・発行

◎ 環境部会 自然体験学習事業(本郷小学校4年生対象)第1回

ふれあい部会 地域と学校の連携事業「春を探そう(2年生・生活科)」「まち探検(3年生・総合)」

『きらり☆本郷』本郷まちづくり推進委員会広報誌 第7号 平成29年7月発行

◎ 環境部会 自然体験学習(本郷小学校4年生対象)第2回 景観教室

・第3回 水生生物・水質調査・第4回 コスモスのたねまき

『きらり☆本郷』本郷まちづくり推進委員会広報誌 第8号 平成29年11月発行

◎ 環境部会 自然体験学習(本郷小学校4年生対象)オープンスクール・灯ろうまつり

ふれあい部会 地域と学校の連携事業(本郷小学校1年生の「むかしからの遊び」)

本郷小学校避難訓練(地域の方々との合同学習及び避難訓練)

『きらり☆本郷』本郷まちづくり推進委員会広報誌 第9号 平成30年3月発行

◎ 地域の子どもは地域で育てる

「環境教育の充実(景観づくり学習)の実施・防災教育の充実・福祉教育の充実」

『ほんごう青少協だより』本郷地区青少年育成協議会 平成30年2月20日

(資料9) 小学校便りの発行

「フェニックス」平成 30 年 3 月 吉日 本郷小学校便り第 25 号 文責：校長 釋迦堂幾則

## 「MRT環境賞優秀賞」受賞！（通信の一部抜粋）

3月21日に、「MRT環境賞」の表彰式が行われ、「優秀賞」（教育学習部門）を受賞しました。この賞は、本校4年生が山崎川をテーマにした自然環境学習に取り組み、長年地域と連携したふるさとを愛する心の教育を推進しながら成果をあげてきたことが高く評価されたものです。今回の栄えある受賞を契機にして、環境教育を本校の特色ある教育活動として充実させて参りたいと思います。活動の計画から当日の学習支援まで年間を通してご協力いただきました全ての皆様にお礼を申し上げます。

なお、本校の取組は、MRT宮崎放送の「県政番組おしえて！みやざき」及び「MRTニュースNext（MRT環境賞受賞者の取組）」において、放送されました。（MRTラジオの「エ・コ・コロカフェ」でも、取組に関する児童のインタビュー等が4月29日（日）の16：05～16：20に放送される予定です。）



### (10) 学校関係者評価による校内体制づくり・外部連携の構築（視点1、視点2）

（資料10）学校関係者評価書の「地域の教育資源や人材などの積極的な活用」に係る部分を一部抜粋

# フェニックス

**本郷小学校の教育目標**  
 豊かな心とたくましい体を持ち、確かな学力を身に付けて、  
 創造性に富み、郷土愛豊かな児童を育成する。

本郷小学校便り第 24 号  
 平成 30 年 3 月 16 日  
 文責：校長 釋迦堂幾則

「本郷小学校自己評価書」の内容に対し、学校関係者評価委員の皆様からいただいた評価や意見をまとめましたのでご報告いたします。フェニックス23号の自己評価書と合わせてご覧ください。課題となっている項目については具体的な改善策を検討しながら取り組み、本校教育活動の一層の充実に努めて参ります。

### 平成29年度宮崎市立本郷小学校学校関係者評価書

4段階評価（4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する）

重点目標	評価指標	具体的対策（手段）及び数値目標 ※本年度（前年度比）	総合評価	ご意見（①～⑧は評価委員）														
地域と共にある開かれた学校づくり	地域の多様な教育資源や人材などを積極的に活用する。	・地域人材の活用延べ350名以上 本年度 612名（3/16現在） （学校支援541名・環境支援71名） 現時点で昨年度より269名増加	全員 4	【地域の教育資源や人材などの積極的な活用について】 ○ 本校とまちづくり推進委員会、本郷地区社会福祉協議会、自治会連合会等、地域の各種団体との連携が今ほど高まった時期はない。地域の各リーダー、有識者との交流が深まり、各種行事への参加とともに多数の地域人材の活用につながった。 ○ 学校と家庭や地域とのパイプ役を果たしていただき、地域との交流ができたことは素晴らしいです。 ○ まちづくり推進委員会との連携がよくなり、地域の方々も子どもたちと触れ合うことができ、喜んでいらっしゃいました。 ○ 授業に地域人材がよく活用されています。これからは特色ある学校づくりを頑張ってください。 ○ 本郷地区のいろいろな行事に多くの児童が参加していただき、ありがとうございます。来年度もコーディネーターの支援のもと、いろいろな活動で地域の方々ともふれ合っていただきたいです。 ○ 地域連携は先生方やPTA役員などの御連帯と意見交換などが活発に行われるようになっており、地域の方が授業に参加する機会も増えています。学校支援コーディネーター制度も常設にしていけるとスムーズに連携が深まるのではないのでしょうか。														
				<table border="1"> <tr> <td>委員</td> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> <td>⑤</td> <td>⑥</td> <td>⑦</td> <td>⑧</td> </tr> <tr> <td>評価</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	委員	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	評価	4	4	4	4
委員	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧										
評価	4	4	4	4	4	4	4	4										

前述した宮崎市教育ビジョン「主な施策1 開かれた学校づくりの推進」に基づき、本郷小学校でも「学校関係者評価委員による評価結果を学校ホームページなどで公表」した。印刷して保護者に配付するとともにホームページで公表している。資料10は、公表した学校関係者評価書の「地域とともにある開かれた学校づくり（3項目）」の一つである「地域の教育資源や人材などの積極的な活用について」の項目に係る部分を一部抜粋したものである。（現在もホームページに公表中）「地域の教育資源や人材などの積極的な活用について」の項目については、8名の評価委員全員から「期待以上という4」の評価をいただいた。学校支援ボランティア数延べ350名以上の目標に対し612名（「H27 247名」、「H28 348名」）

であった。学校関係者評価委員の貴重なご意見を真摯に受け止め、「総合的な学習の時間」等の充実に向けての体制づくりの改善充実に生かすとともに、「平成30年度の学校経営計画の作成や教育課程の編成」に反映させた。

【地域の教育資源や人材などの積極的な活用について】（上記「学校関係者評価」のご意見欄より）

- 本校とまちづくり推進委員会、本郷地区社会福祉協議会、自治会連合会等、地域の各種団体との連携が今ほど高まった時期はない。地域の各リーダー、有識者との交流が深まり、各種行事への参加とともに多数の地域人材の活用に結びついた。
- 学校と家庭や地域とのパイプ役を果たしていただき、地域との交流ができたことは素晴らしいです。
- まちづくり推進委員会との連携がよくとれ、地域の方々も子どもたちと触れ合うことができ、喜んでいらっしゃいました。
- 授業に地域人材がよく活用されています。これからも特色ある学校づくりを頑張ってください。
- 本郷地区のいろいろな行事に多くの児童が参加していただき、ありがとうございます。来年度もコーディネーターの支援のもと、いろいろな活動で地域の方々ともふれ合っていたきたいです。
- 地域連携は先生方や PTA 役員などの関連団体と意見交換などが活発に行われるようになっており、地域の方々も授業に参加する機会も増えています。学校支援コーディネーター制度も常設にいただけるとスムーズに連携が深まるのではないのでしょうか。

### 3. まとめと考察

本研究においては、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編（平成 29 年 7 月）の「第 9 章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり」に焦点を当て、「校長のリーダーシップ」の下、いかにして「校内組織の整備」や「外部連携の構築」に取り組んでいるかについてまとめた。具体的には、過年、筆者が校長として勤務した宮崎市の公立小学校において、「地域は大きな教室、地域はパートナー」という認識で「校内組織の整備」及び「外部連携の構築」の 2 つの視点から実践した内容について整理し、考察を加えることにする。

**視点 1 「校内の教職員が一体となり協力できる体制をつくるなど校内組織の整備」について、以下の 5 点が実践のまとめである。**

- ① 上記した宮崎県や宮崎市の教育施策、学校関係者評価書や地域の課題等（平成 29 年 3 月策定「本郷地域魅力発信プラン」）を踏まえ、「（資料 1）平成 29 年度本郷小学校の教育（学校経営計画）」を作成し、新年度初日に全職員に説明した。「地域とともにある開かれた学校づくり」をすべての教育活動に係る基盤となるものとして位置づけ、教育活動全般にわたって、「横の連携」と「縦の接続」を重視し、学校・家庭・地域・児童が「目標や課題」を共有し、協力しながら一緒に取り組めるようにした。総合的な学習の時間等を充実させるための体制づくりにつなげるために「学校経営ビジョン 3」、「重点目標及び主な実践内容（「地域とともにある開かれた学校づくり）」、「学校経営ビジョン推進に向けて大切にしたいこと」に保護者や地域住民との連携強化に係る内容を明記した。

校長の次年度教育課程編成に向けての基本的な考え方や方針を説明（12 月～1 月）し、それを踏まえて全教職員が学年・教科・校務分掌組織の役割責任体制のもと、教育課程の評価（11 月～12 月実

施)の結果分析、課題の具体的改善策や教育課程の編成に主体的に関わり、新年度を迎えた。その過程で、総合的な学習の時間の成果や課題、具体的改善策についても学年・教科部会等で改善に向けて検討し、全体会で提案・検討を重ね、次年度の教育課程の改善に繋げた。こうしたことが、年度当初、全教職員が学校経営ビジョンや教育課程（「総合的な学習の時間の計画」を含む）、校務運営組織等について当事者意識をもって受け止め、教職員が一体となり協力できる体制づくりに繋がるものと考えられる。

- ② 「4 地域連携・生涯学習全体計画」（一部抜粋）への位置付けによる体制づくり」（資料3）において、総合的な学習の時間も含め、地域連携の目標等を整理して計画に位置付け、職員間で認識を共有し、内容をしっかり意識して取り組んだことを紹介した。（学校の地域連携の目標、地域連携の重点目標、各教科・領域での指導「総合的な学習の時間」等）全体計画への位置づけなど重要な内容を可視化することも教職員が一体となり協力できる体制づくりにおいて重要であると考えられる。
- ③ 「5 学校運営体制・校務分掌への位置付けによる校内体制づくり」において、学校経営計画（資料1）の重点目標及び主な実践内容「地域とともにある開かれた学校づくり」について「自己評価計画書」に位置付けるとともに、地域連携担当については、学校運営組織・校務分掌組織にの教務部に位置づけ、役割責任体制を明確にしたことを紹介した。教職員が役割を自覚し、主体性を発揮しながら地域連携を推進できる体制づくりにつながるものと思われる。
- ④ 「6 学校経営案等への位置付けによる校内体制づくり」を紹介したが、職員が目標や課題、指導方法、システム等について「認識の共有と行動の一元化」を図り、当事者意識をもって取り組むことが、総合的な学習の時間等を充実させるための校内体制づくりには欠かせない。そのため、学校経営案等に詳細を明記し、共通理解を図ることが重要である。
- ⑤ 総合的な学習の時間の充実に向けて、職員研修による校内体制づくりは極めて重要である。「7 職員研修による校内体制づくり・外部連携の構築」のための「地域連携研修」を春季休業中の年度最初の研修として位置付けて実施したことを紹介した。総合的な学習の時間をはじめとした連携活動による教育活動の充実に向けての考え方や方法等の確認の場にもなり、校内の教職員が一体となり協力できる体制づくりに繋がるものと思われる。

**視点2「学校が家庭や地域と連携・協働しながら取り組む外部連携の構築」について、以下の5点が実践のまとめである。**

- ① PTA総会において校長による学校経営説明（資料1）、PTA会長による方針等の説明を実施した。また、総合的な学習の時間の外部連携に関する依頼文を含め、年間を通して、校長とPTA会長連名（内容によっては、学校支援コーディネーターも連名）による保護者や地域の方々への文書を作成し発出した。こうしたことも、学校と家庭が連携・協働して取り組んでいることが保護者や地域の方々にも伝わり、外部連携の構築に繋がるものと考えられる。
- ② 「3 保護者との連携体制づくり」（資料2）において、家庭との連携を図りながら目標と課題を共有し、共に育む教育を展開するために、「学校の校務分掌組織とPTA組織を対応させる取組」を紹介した。平成27年度後半から2年がかりでPTAの組織改変を行い、平成29年度から校務分掌と委員会活動組織、PTA専門部組織との対応を図り、組織運営体制の見直しによる校務のスリム化にも繋げた。組織改変による外部連携の構築も重要な視点であると考えられる。

- ③ 視点1においても紹介した、「7 職員研修による校内体制づくり・外部連携の構築」のために実施した「地域連携研修」は、「総合的な学習の時間」をはじめとした連携活動による教育活動の充実に向けて極めて重要な位置づけとなった。策定された「本郷地域魅力発信プラン」の内容の理解、まちづくり推進委員会・学校支援コーディネーターの役割・活用方法の理解、地域課題の解決に向けて一緒に取り組むことについて共通理解する研修となった。本郷まちづくり推進委員会事業として、本郷小学校との連携・協働により実施する計画があることなど、まちづくり推進の一貫として地域全体で学校の教育活動を一緒に支援していく動きがあることも認識する機会となった。

「本郷地域魅力発信プラン」の目的や内容（事業目的）と総合的な学習の時間をはじめとした学校の教育課程を対応させながらの総合的な学習の時間（環境教育・福祉教育等）の見直し等に繋がった。特に、「8 総合的な学習の時間の実践例（平成29年度）」で紹介した4年生の総合的な学習の時間「自然体験学習」の取組は、単元の目標の実現とともに、本郷のまちづくりや地域活性化につながった取組の一つではないかと思われる。教職員は、総合的な学習の時間など連携活動による成果を共有するなかで、「何かできそうだ」「できる方法を考える」など、担当教員が地域や保護者と連携・協働することによる教育活動の可能性を探るようになった。

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 西(2019)は、「今、地域、学校に求められていること～地域と学校の連携・協働の進め方について～」において「地域とともにある学校づくり」に向けて大切なこととして、「課題・目標ビジョンの共有」⇒「アクションの共有（協働）」⇒「成功体験の共有」⇒「情報の共有」のサイクルを示している。本郷小学校においても、教育課程の評価や編成の段階から本郷まちづくり推進委員会などの外部関係者と一緒に計画するなどしてきたが、西が指摘する一連のサイクルは、総合的な学習の時間の体制づくりにおいても重要なポイントになると思われる。また、宮崎県教育振興基本計画の「施策2 地域と学校の連携・協働の推進」において「学校を核とした地域づくり」と「地域とともにある学校づくり」の重要性が記されている。

「重点取組2 地域と学校の連携・協働による多様な活動の充実」には、「今後は、よりよい教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と地域・家庭等が共有し、各学校が社会に開かれた教育課程の実現に努めるなど、学校と地域が目的や目標、目指す姿を共有することにより、当事者意識を持って役割を分担し、組織的かつ継続的に取り組んでいけるよう、関係づくりや体制づくりを進めることが重要なポイントとなります。」と記されている(宮崎県教育委員会、2019)。

宮崎市教育委員会では、毎年、市内全国公立小学校・中学校の特色ある実践をまとめた「地域と学校の連携活動実践事例集」を発行しており、地域等指導者との連携活動による充実した実践に繋がっている。「平成26年度第18集」からの5か年分を見ると、毎年、総合的な学習の時間の事例が一番多く見られ、この5年では全体の約6割を占めており、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けての研修や年間を見通したボランティア活用計画の作成など各学校における「総合的な学習の時間等を充実させるための体制づくり」が求められている。本稿においても、本郷まちづくり推進委員会をはじめ多様な主体との連携・協働による総合的な学習の時間の事例を紹介したが、総合的な学習の時間も含め学校支援のあり方を見直し（学校から地域への依頼型から地域と学校がパートナーとして活動する連携・協働型へ）、地域・学校の実情や課題を踏まえた多様な活動を展開していけるように、校長がリーダーシップを図りながら継続的な外部連携の構築を図る必要がある。

- ④ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）の「第9章 総



総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり」の「2 外部連携のための留意点」には、外部連携のためのシステムや外部連携を適切に行うための五つの配慮事項の一つに「(5) 学習成果の発信」が記されている。本稿では、「9 保護者や地域への発表・発信による体制づくり」(資料8、9)において、学校からの発信とともに、連携・協働した関係機関等からも取組が紹介(資料8)され、それを印刷して保護者や関係者にも配付したことを紹介した。児童・保護者・地域の方々・学校職員にとって大きな喜びにつながった。保護者や地域の人々の総合的な学習の時間への関心の高まりや連携・協働による成果の実感にも繋がったのではないかと思われる。前述した宮崎市教育ビジョン「主な施策1 開かれた学校づくりの推進」の一つに「学校に関する情報を積極的に家庭・地域へ情報発信」があるが、外部連携のためのシステムや外部連携を適切に行うために、学習成果等の発信は極めて重要であり、年間を通しての発表・発信が体制づくりに繋がるものと考えられる。

- ⑤ 「10 学校関係者評価による体制づくり」(資料10)において、ホームページに公表した資料の一部を紹介した。宮崎市教育ビジョン「主な施策1 開かれた学校づくりの推進」の一つに「学校関係者評価委員会による評価結果を学校ホームページなどで公表」とある。学校関係者評価委員の意見を総合的な学習の時間等の充実に向けての体制づくりや「次年度学校経営計画の作成や教育課程の編成」に具体的に反映させることも重要である。

「総合的な学習の時間」の特徴は、体験活動を行うことであり、連携体制の充実に基づく教育活動が大きな意義がある。職員等の異動があっても組織として継続的に連携・協働できる体制づくりに向けてのマネジメントが肝要であり、中でも、校長のリーダーシップに基づく連携体制づくりが重要である。小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編(平成29年7月)の「第9章総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり」の「第1節 体制整備の基本的な考え方」において、校内の体制づくりについて4つの視点が示されている。その内の2つの視点(「校内の教職員が一体となり協力できる体制をつくるなど校内組織の整備」、「学校が家庭や地域と連携・協働しながら取り組む外部連携の構築」)について、実践例を基に考察を加えた。

具体的には、「校長のリーダーシップ」の下、いかにして「校内組織の整備」や「外部連携の構築」に取り組んでいるのかについて、宮崎市内の公立小学校における取組を紹介した。(「地域連携・生涯学習全体計画」への位置付けによる体制づくり、「学校運営体制・校務分掌への位置付けによる校内体制づくり」、「PTA専門部と校務分掌組織との対応による体制づくり」、「地域連携研修による校内体制づくり・外部連携の構築」、「保護者や地域への発表・発信による外部連携の構築」、「学校関係者評価による校内体制づくり・外部連携の構築」等)特に、新年度最初に実施した地域連携研修は、校内体制づくりとともに学校と地域が目的や目標、目指す姿を共有し、組織的かつ継続的に取り組んでいける関係づくりや体制づくりの推進に繋がった。また、保護者や地域への学習成果の発表・発信による外部連携の構築の重要性についても考察した。

今後は、「確実かつ柔軟な実施のための授業時数の確保と弾力的な運営」、「多様な学習活動に対応するための空間、時間、人などの学習環境の整備」の視点からの総合的な学習の時間等を充実させるための体制づくりについて研究する必要がある。

#### 4 おわりに

12月の日曜日に実施された本郷小学校のオープンキャンパスを参観した。4年生は、学級ごとに総合的な学習の時間「自然体験学習」の活動報告を行った。体験学習でお世話になった方々や保護者に対して、一年間を通して学んだことや感謝の気持ち、まちづくりに参加したい思いなどを力強く述べていた。グループごとのテーマは多岐に及び、多くの関係者の方々の協力があったればこそ、それぞれの課題の学習に対応できたのだなという思いで参観した。指導体制が充実しており、地域ぐるみで継続して取り組まれていることを実感できた。

学校では様々な教育活動が展開されるが、常に「子どもにとってどうか」「どういう資質や能力を身に付けさせるのか」といったことを念頭におきながら展開する必要があると考える。そのためにも、総合的な学習の時間等を充実させるための校長のリーダーシップに基づく体制づくりが求められる。

### 参考資料

釋迦堂幾則（2012）「ふるさとを愛し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成～飯野小中高一貫教育を通して～」『小学校時報 11 特集 新しい時代に対応した校長の役割～幼稚園・中学校・高等学校等との連携・交流を通して～』全国連合小学校長会編集

宮崎県・宮崎県教育委員会『宮崎県教育振興基本計画（令和元年策定）』

宮崎県PTA連合会（宮崎県PTA新聞『きずな』2012.11）トピックス「伝統芸能を取り入れた地域との交流 えびの市立飯野小学校の麓輪太鼓踊り（釋迦堂幾則校長 児童422人）」

宮崎県・宮崎県教育委員会（2015）『第二次宮崎県教育振興基本計画（改訂版）』

宮崎市教育委員会（2019）『宮崎市教育要覧』

宮崎市教育委員会（2015～2019）『地域と学校の連携活動実践事例集（平成26年度第18集～平成30年度第22集）』

宮崎市立本郷小学校学校経営案（平成27年度～平成29年度）

文部科学省（2010）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領』

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』